人気会計士が語る、小さな会社の経営“これだけ”（第2回）

小さな会社の経営は臆病なくらいがちょうどいい

2018.12.19

顧問先2200社を抱える会計事務所を率いる公認会計士、古田土満氏が語る小さな企業の経営のコツ。たくさんの経営者との付き合いを通して得た“これだけ”は知っておいてほしい実戦的経営講座の第2回は、「本業」に徹底することの大切さです。

不況になると、多くの会社で売り上げが急激に減少し、資金繰りに困る会社が増えます。

私が多くの中小企業の決算書を見て思うのは、貸借対照表がバランスしていないということです。数字のバランスではなく、資金の運用と調達のバランスです。「なんでこんなお金の使い方をするのだろう」と思うことが、たびたびあります。

特に、固定資産と借入金のバランスが問題です。土地・建物、保証金などの固定資産と、借入金がほぼ同額という貸借対照表をよく目にします。借入金のほうが多いケースもあります。

固定資産の部に計上されている資産は、減価償却費になるものが大半で、経費化されるものはそれほど多くはありません。一方、借入金の返済原資は基本的に利益になります。利益の蓄積が内部留保され、純資産額となります。

つまり内部留保が少ないということは、本業でも、投資しても今までもうからなかったということで、借入金の返済原資が今後もつくれない可能性が高い会社といえます。

投資より本業が大切。借入金はとにかく減らす… 続きを読む